

エスベック様のフィールド業務支援システム導入事例を公開!

当社ホームページに、エスベック様へのフィールド業務支援システム導入事例を公開しました。

同社は国内15拠点による充実のアフターサポート体制を敷いていますが、それぞれの修理案件にフィールドエンジニアを割り当てるディスパッチ

業務は拠点ごとに紙台帳で行われており、本部から状況を把握しづらくなっていました。

これらをシステム化するため、パナソニックISのフィールド業務支援システム「eSmileFeSS」を導入。お客様対応状況の見える化と

売上予測の精度向上を実現されました。

従来の紙台帳イメージ

顧客	作業内容	担当	修理予定月	一次連絡	日程調整	伝票処理
A社	部品交換	山田	2018年1月	済	済	
B社	修理	田中	2018年3月	済		
C社	部品交換	高橋	2018年5月			

紙だから本部から見えない... 修理日はいつ? 売上が上がるのは?

詳しくは当社HP内の導入事例をご覧ください!

<https://is-c.panasonic.co.jp/case/151/>

QRコードからもアクセスできます



イベント・セミナー予定

東京地区

「RPA×EAI」で実現するワンランク上の業務自動化実践術～働き方改革、進んでいますか?～

日時 3月5日(火)
14:30~17:00

場所 東京オフィス セミナールーム

九州地区

情報処理学会 第81回全国大会

日時 3月14日(木)~16日(土)

場所 福岡大学 七隈キャンパス
Cloudpagingを展示します。

詳しくは
<https://is-c.panasonic.co.jp/event/>
をご覧ください!

外部システムの承認を「MAJOR FLOW Z」で簡単に実現するための新オプションを発売

当社の連結子会社であるパナソニック ネットソリューションズ株式会社は2019年1月15日より、大企業・中堅企業向けエンタープライズワークフローシステム「MAJOR FLOW Z」の新オプション「PDF申請テンプレート」を新たに発売しました。

これにより、承認機能を持たない外部システムでも「MAJOR FLOW Z」を用いて承認を行えるようになります。

クラウド録画サービス「Ciero」が高機能クラウドPOS「スマレジ」と連携

当社の連結子会社であるヴィ・インターネットオペレーションズ株式会社は、2019年1月30日より、クラウド録画サービス「Ciero」を、株式会社スマレジが展開する高機能クラウドPOS「スマレジ」に連携対応しました。飲食・小売店舗において、レジの過不足(違算)金や顧客との金銭受け渡しを巡るトラブルは、完全防止や原因の特定が難しく、解決には多くの時間や労力を要するものとされていました。

「Ciero」と「スマレジ」を連携させることにより、例えば、顧客との金銭受け渡しに関するトラブルや過不足金が発生した場合、その場ですぐに確認することができます。さらに、購入商品を検索することで、映像から購入者の属性も確認できるため、マーケティングへの活用も可能です。



スマレジの利用風景をCiero対応カメラで録画



レシート情報をもとにカメラ映像を検索!

RECEIPT	
	・レシートNo.
	・JANコード
	・商品名
	・レジ担当者 など
TOTAL	

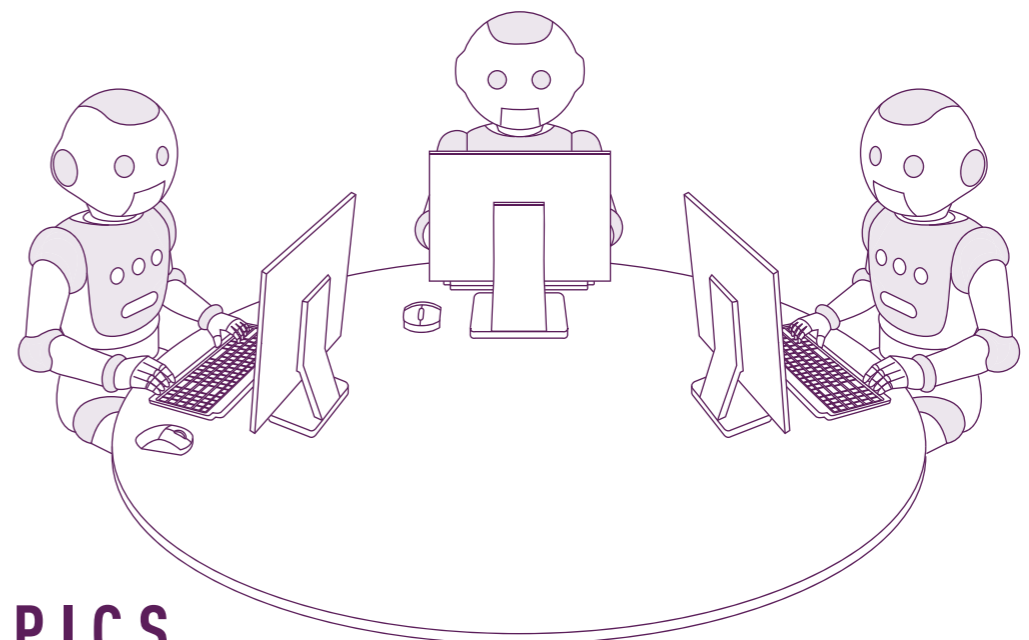
IS CLOSE UP

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社

2019.3
vol. 63

RPA×EAIで実現する

業務自動化



TOPICS

エスベック様のフィールド業務支援システム導入事例を公開!

外部システムの承認を「MAJOR FLOW Z」で簡単に実現するための新オプションを発売

クラウド録画サービス「Ciero」が高機能クラウドPOS「スマレジ」と連携

編集後記

近頃話題のRPA。当社でもRPA関連のセミナーはおかげさまで毎回多くの方にお越しいただいており、皆さん非常に注目されているのだと実感します。導入で大事なものは、目的は「システム導入」ではなく、その先の「業務改革」だということ。既存の業務プロセスを変えられないか見直した上で、RPAとEAIを上手に組み合わせることで自動化するのが成功のポイントです。是非ご相談ください。

発行元

パナソニック インフォメーションシステムズ株式会社
営業統括部 企画管理チーム

〒140-0002 東京都品川区東品川2-3-14 東京フロントテラス18F
TEL:03-5715-5470 FAX:03-5715-5471 <https://is-c.panasonic.co.jp/>

※本紙掲載記事の無断転載・複製を禁じます。
※本紙に記載された社名および商品名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。

RPA×EAIで 実現する 業務自動化

働き方改革、 進みますか？

働き方改革の重要性が叫ばれて久しいですが、生産性の向上や多様な働き方の実現はまだ遠いとの声も少なくありません。そんな中注目されているのが業務自動化。あなたの周りにも実は自動化できる業務があるのではないのでしょうか。今号では業務自動化ツールとしてRPA (Robotic Process Automation) とEAI(Enterprise Application Integration)を取り上げ、業務自動化のポイントをご紹介します！



RPAとEAIとは？

RPAもEAIも、既存のシステムに変更を加えず必要な処理だけを自動化できるため、手軽に業務効率を上げられると言われています。

RPAはキーボードやマウス操作を代行してくれる、言うなればソフトウェアロボット。

PC画面上でボタンを押したり、転記するような画面上の操作が得意です。

一方、EAIは複数のシステムを連携させ、企業内に散らばったデータを統合するハブのような役割。こちらはデータを抽出して別のシステムに渡したり、データの四則

演算やフォーマット変換などの複雑なデータ処理が得意です。それぞれの得意分野を理解した上で、適材適所で業務を割り当てるのがポイントです。

業務自動化ツールは2種類ある



人間の代わりに働く
ソフトウェアロボット

RPAが得意とする業務

手順の決まった定型作業

例えば…

- Webの操作やプリントアウトなどの個人PCでの単純作業
- Excel→Word、Excel→Webといった転記作業
- アウトプットされた資料のチェック作業



複数システムの
データを統合する
連携ハブ

EAIが得意とする業務

データ連携処理

例えば…

- 大量データ処理やDBアクセスが必要なデータ授受処理
- クラウドサービスとのAPIを介したデータ連携処理
- 複雑な処理が必要になる業務系処理

ケーススタディ | データ分析業務を自動化してみよう

それでは、実際に業務を自動化してみましょう。家電メーカーの販売データ分析業務を例に挙げてみました。

- ①取引先小売店のPOSシステムへアクセスし、ID・パスワードを入力してログインする
- ②Web画面上で、地域・カテゴリごとに

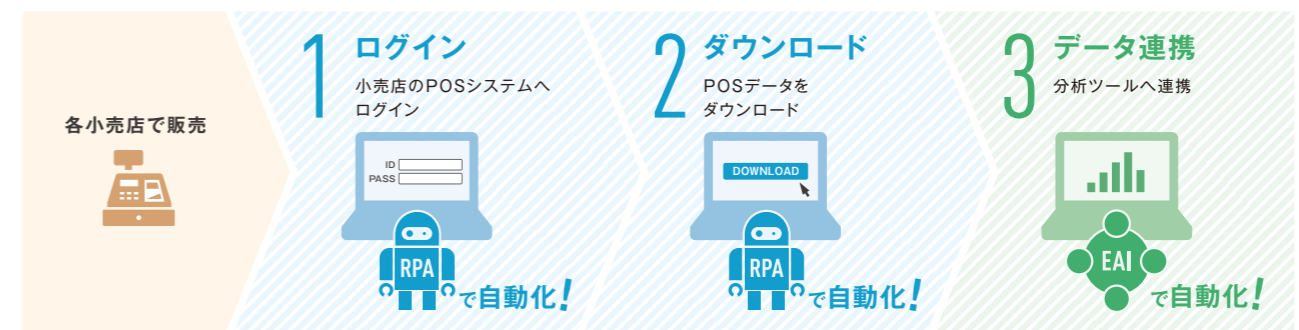
POSデータをダウンロードする

- ③ダウンロードしたPOSデータを社内分析ツールに連携する

このような業務プロセスの場合、①RPA→②RPA→③EAIと自動化するのがおすすめです。

ただし、業務自動化ツールは使い方に

よっては期待した効果が得られないこともあります。どの業務から自動化すべきかの見極めや、既存の業務プロセスの再検討もあわせて行いましょう！



最後に…業務自動化チェックポイント

- ☑ **どの業務から自動化すべきか見極める**
…「自動化できそうな業務」ではなく「自動化することで高い効果が得られる業務」を自動化すべし！
- ☑ **そもそその業務が必要なのか？を検討しなおす**
…既存の業務プロセスに疑問を抱くことも大事！